(Janne Da Arc)

kiyo Plays MOTIF XS7

Janne Da Arcのサウンドを支えるキーボーディストkiyo。ロックバンドにおけるキーボードのカッコ良さを、今、いちばん鮮やかに体現しているアーティストではないだろうか。サポートで参加したJanne Da Arcのギタリストyouのソロプロジェクト[you Live LIFE ～ La conclusión～]のリハーサルの間を縫って、愛用のMOTIF XS7や、シンセの魅力についてインタビューした。

シンセを手に入れるまでは、「エアシンセ」してました。

シンセサイザーを始めたのはいつ頃ですか。

●バンドを組む前からずっとシンセに憧れていて、家ではずっと「エアシンセ」をしてました。でも一番最初に中学校でバンドを組んだ時は、なぜかドラム（笑）。念願のシンセは、高校入学の時。カタログを読み漁くって選んだのが、ヤマハのSY55でした。

シンセを手に入れた時は嬉しかったですか。

●とにかく僕は「シンセを弾く姿」に憧れていて。特にボタン操作。演奏しながらボタンを押すっていう行為が、すごくカッコよく思えたんですよね。

Janne Da Arcのメンバーには高校で？

●そうですね。yasuやshujiは同級生でした。彼らとバンドを組んで、ライブハウスに出たりしていました。当時はいろんなコピーをやってましたね。

オリジナルを作りはじめるきっかけは？

●やっぱりシンセでしたね。yasuの家にシンセを持って行って打ち込みをはじめて。それでオリジナルを作り始めました。シーケンサー機能をさんざん使い倒しましたね。打ち込みが演奏と同じぐらい楽しかったんですよ。徹夜でずっと打ち込んでましたね。シンセをいじりたおして、いろんな機能をスポンジのように吸収していった時期だったと思います。

MOTIFはプリセットもエフェクトもクオリティがとても高いです。

その後ずっとヤマハのシンセを？

●ずっとヤマハ。今のメインはMOTIF XS7です。

MOTIF XS7のいい点は？

●1つの音色で使えるウェーブが多いので、クオリティがとても高いです。それに内蔵エフェクトの質も高いので、1音色からいろんなバリエーションが作れます。エフェクトはライブでは必須の機能で、ツアーでいろんな会場で演奏する時、会場の響きに合わせてエフェクトを調整するんですが、MOTIFはエフェクターが内蔵されているから、便利なんですよ。

プリセット音色のクオリティはどうですか。

●とてもいいですね。以前は「音色をエディットするのがプロ」っていう風潮があったけど、MOTIFはプリセットの完成度がとても高いから、そのままでもOK。特にSE類なんかは重宝しています。

よく使うプリセットは？

●使用頻度が高いのはエレピ。2大エレピ音色に加えて、ヤマハ伝統のエレピ「CP」があるのが嬉しいです。音が良く又ケるから、バンドでよく映えます。

ヤマハのシンセの魅力は？

●まず一つは操作性がいいこと。慣れてるせいかもしれないけど、ホイールも含めて僕には一番使いやすいです。それから音色のエレメントが継承されているっていうのも大きい。歴代の音を後継機で再現できますからね。もちろん音もいいですよ。ヤマハのシンセで特にいいと思う音色は、ボイスパット系です。ツボをよくお得た音色作りが巧いと思います。

シンセは簡単にいい音が出せるし深く追求することもできる。

曲作りでもシンセはよく使っていますか。

●もちろんです。曲作りのツールという意味では、もうキーボーディストだけがシンセを持つ時代じゃないですね。実際、今は僕たちもメンバーに1人1台。音楽制作のパソコンとも連動できるし。

バンドでのシンセの醍醐味とは？

●いかなる場面でも溶け込めるところですね。それから鍵盤楽器っでメロディを強く出せるから、ボーカルに絡めるのも魅力だと思います。ちょっと渋いところで言うと、シンセって音域が広いからライブ中にベースやギターがトラブった時に、颯爽と助けられる。そういうところもカッコいいと思うんですよ。

シンセを弾く人がもっと増えるといいですね。

●シンセってマニアックなもの、と思っている人が多いかもしれないけど、そんなことないんです。MOTIFにはすごくいい音がたくさん入っていて、選ぶだけでカッコいい音が出せますからね。もし自分で追求したいなら、エディット機能を駆使してどこまでも深く音を作れる。そこがシンセのいい点なのでもっと気軽にシンセを弾く人が増えて欲しいですね。

タッチの強弱を生かして音の表情を出してほしい

キーボードプレイヤーへアドバイスをお願いします。

●これは基本中の基本なんですが、鍵盤を弾く時って、弾く強さがものすごく大事なんです。アマチュアの人のプレイを見ると、常にフルパワーでガンガン弾いている人が多いんですが、シンセって、生楽器と同じように、鍵盤を弾く強弱でものすごくいろんなニュアンスが出せるんです。そのあたりに気をつけて演奏してもらえるといいなと思います。

最後にkiyoさんにとって、シンセとは何ですか？

●僕の人生を変えてくれたものですね。ずっと弾いてきて、今まで一瞬もシンセに飽きたことがないぐらい、僕にとって楽しみ続けられる楽器なんです。◆

Instruments

MOTIF XS7
メーカー希望小売価格
309,750円（税込）

Information

Janne Da Arc Keyboard kiyo Solo Project
1st Album「ARTISAN OF PLEASURE」
¥3,000（TAX IN）
AVCD-32106
発売中！

発売中！
淀ノ川ドイル博士
「訳作動～完全版～」
¥4,500（TAX IN）
AVBD-32105/B

発売中！
淀ノ川ドイル博士
「訳作動～テスト配動～」
¥2,500（TAX IN）
AVBD-32102

steinberg 25th anniversary

Special Interview

YASUTAKA NAKATA（capsule）

中田ヤスタカ（capsule）

Q. 中田さんが音楽を始めたのはいつ頃からですか？
作曲で言ったら小学校高学年ぐらいですね。そのときはまだピアノだけなんですけど。

Q. その後、いわゆる打ち込みでの音楽制作は？
ピンポン録音のような多重録音から入って、シーケンサーの存在を知って、家のPC98とかを使って、同時発音数8音とかで始めた感じですね、FM音源でした。

Q. ちなみにそのFM音源というのはDX7ですか？
TX7かな？あとTGとかの時代ですね。古いパソコンだと画面表示を待つのにもすごく時間がかかって、ごりゃシーケンサー買おうって思ってQYを買って。QY300もQY700も使った。QY700の後はMacで。

Q. 最初に使ったDAWソフトは何でしたか？
PCのときは「レコンポーザー」だったんですけど、Mac買ったときは「パフォーマー」ですね。

Q. 本格的にCubaseを使い始めたのは？
ソフトシンセの時はまだCubase VSTだったんですけど、シーケンスもやるようになったのはSXです。SX2になった頃は、もうハードを使わずに作った感じです。

Q. 初めてCubase 5を使用されたときの印象は？
基本的な使い勝手が大きくは変わってないので、違和感なく使えてるんですけど、やっぱりVariAudioが大きいですよね。今までは、ボーカルのタイミングとかを、凄いブツ切りになる感じでやるしゃないですか、あれに比べたら編集が速いですよね。その場で波形を見ながらリルタイムなんで、タイムストレッチも使わなくなりましたね。

Q. プラグインのPitch Correctも使用していますか？
使ってますね。いわゆる自動ピッチ補正的なプラグインを掛けたりするんですけど、あらかじめVariAudioでピッチをいじって、その後、Pitch Correctを掛けたときに良く掛かるように変えるっていうのをやり始めてます。元のピッチがどれくらい揺れてるかとか、どうカーブを描いているかで掛かり方にだいぶ影響があるんで、今ちょっと試行錯誤してるんです。今までできなかったことなんて。あとVariAudioもPitch Correctのようにmidiでトリガーできるといいですよね。

Q. その他の新機能も使用されていますか？
LoopMashはアイデアが欲しい時にはいいかもしれないんですけど、曲のプロジェクトの中で使うというよりは、遊んで色々混ぜるみたいなそういう感じですよね。Groove Agent ONEはすごく良いと思う。今までCubase標準付属では無かったじゃないですか、こういうプラグイン。これから始める人的にはすごく良いと思うんですよね。即戦力的な感じで僕の周りでも評判良いですよ。

Q. Steinberg社は今年で創立25周年を迎えます。何かメッセージをいただけますか？
僕、ドイツ好きなんで。特にこういうコンピューターで音楽やってる人ってドイツ製品使ってる人が多いと思うんです。その中でもやっぱり、すごく良い製品を作ってる会社だと思う。テクノロジーというか道具と音楽の進歩ってホントに重要な関わりだと思ってるんで、これからもどんどん刺激的な機能を、増やしていって欲しいなと思っています。楽しみにしています。◆

渡部高士（サウンドエンジニア・レコーディングエンジニア）

TAKASHI WATANABE

Q. 渡部さんは、現在メインDAWにNuendo 4をお使いでしょうか。
基本的にはNuendo 4なんですけど、最近はCubase 5も使ってます。だいたいバージョンはCubaseが先行するんで、その期間はCubaseを使ってます。

Q. CubaseやNuendoを使い続ける理由は？
やっぱり何年も使ってるという"慣れ"が一番大きいと思うんですよね。ひとつ言えるのは、Steinbergが最初に箱の概念を作ったんです。普通はAudioファイルをアレンジウインドウに裸で貼るわけです。で、頭が1小節目の4拍目の3ビート目の～みたいなすごい細かい数字になりますよね。もしくはタイムコードで貼る。それはやっぱりミュージシャン的には小節頭から始まってないから扱いづらいわけです。でも、Cubaseはそれを一回ひとつの箱の中に入れて、頭は1小節目ピッタリにしとこうと。で、終わりもちゃんと合わせておけば8小節でコピーできるわけです。普通のAudioファイルで貼ってくと、コピーしていったとき隙間ができて、それを拡大して俯瞰して見ると、もう隙間がボコボコ出てきて、やりづらいんです。だけどCubaseは8小節で固って、それも8小節のパターンとして扱える。その概念は他のDAWソフトには無いんですよね。ですから他のDAWソフトから移ってきた人に、「必ずバート使ったほうがいいよ」って教える。そうしてCubaseに慣れてくると、みんな使い始めるんです。

Q. Cubase 5の感想をお聞かせいただけますか？
Cubaseを使っていて、こういう機能があったらいいなっていうのが、頭の中にみんなあるじゃないですか。今回、それが結構な割合で実現されていますね。象徴的なのが、同時に複数のトラックが全部書き出せるっていう「バッチエクスポート」です。

Q. Steinberg社に対してメッセージを。
Steinbergって、常に一番最初に、後でみんなが真似するようなことをやってきたんですよね。でも今はもう、DAWソフトで「これがやりたかった」っていう機能はだいたいできちゃってるんです。ですからこれからイノベートするためには、結構本当にすごい「えー、こんなこと考えたんだ」っていう発想が重要だと思うんです。それをずっと続けていって欲しいですね。◆

中西亮輔（編曲家・作曲家・音楽プロデューサー）

RYOSUKE NAKANISHI

Q. 様々なDAWソフトの選択肢がある中で、現在Nuendoを使用される理由は何でしょうか？
Audioの処理が軽いというのが最大の理由です。具体的には、Audio波形の拡大・縮小の表示速度も速い。速いのがやっぱり一番印象が良かったんですよね。

Q. 中西さんはプロデューサーとして2008年に、Cubase 4.5とMR816CSXでアーティストCHIHIROさんの新譜レコーディング企画を行いました。そのきっかけなどを教えていただけますか？
「Cubaseで全部できるか？」ということです。業界標準になってるDAWシステムをリプレイスして、どこまでやれるのかっていうことに非常に興味があったんですよね。一番印象に残ってるのは、ミックスダウンが終わってで出上がった2Mixを、スタジオで聴いた時、今まで使ってたDAWソフトよりも「音抜けが良かった」っていうこと。Cubaseの内部処理の良さが理由だと思うんですけど、鳴らしたときの、"華やかさ"っていうか、結構ショックでビックリしましたね。この方法に確信が持てました。

Q. Steinberg社は今年で創立25周年を迎えます。何かメッセージをいただけますか？
ホント10年前から考えたら夢のようなソフトなので、これからもどんどん、夢のような機能を満載にして、良いソフトを作っていってもらえたら嬉しいです。◆

待望の新商品『Cubase 5』『Cubase Studio 5』好評発売中！

Steinbergの25年にわたる開発経験から生まれた最先端のDAW（デジタルオーディオワークステーション）ソフトウェアが「Cubase 5」「Cubase Studio 5」です。最高のサウンドクオリティ、直感的な操作性、そして作曲、レコーディング、編集、ミキシングのための豊富なツールを高度に統合しています。

Cubase 5 通常版
オープンプライス
Cubase 5 アカデミック版
オープンプライス
Cubase 5 アップグレード版
¥89,800（税込み）

Cubase Studio 5 通常版
オープンプライス
Cubase Studio 5 アカデミック版
オープンプライス
Cubase Studio 5 アップグレード版
¥44,800（税込み）

Steinberg日本語サイト
http://japan.steinberg.net/

ヤマハウェブサイト
http://www.yamaha.co.jp/

-DE1181

ヤマハ株式会社
発行元：ヤマハ株式会社 EKB-LM営業部 ARTグループ
TEL.03-3476-1529

YAMAHA
Vol.5
LM NEWS
Interviews & News of Excellent musicians collaboration with Yamaha musical instruments products.
2009 May

tessy(Unicorn) plays Pacifica/CPX/SAS

まさかの再始動で話題沸騰、新作アルバム「シャンプル」、そして全国ツアー「ユニコーンツアー2009 蘇える勤労」も、大好評のユニコーン。さいたまスーパーアリーナでライブが行われた日、ユニコーンのギターサウンドを支える手島いさむに、再始動のこと、愛用のギター、Pacifica USA2などについてインタビューした。

「風」の『海風』を聴いて、エレキを買いに走りました。

最初にギターを始めたきっかけを教えてください。

●中学の時、親友の家に行ったらなぜかギターがあったんですよ。親友なのにギターが弾けるなんて知らなくて、なんだよーって。彼が弾いているところを見たら僕も欲しくなって買ってもらって。で、3日練習したらすぐ追い越しました。当時野球をやっていたんですが、毎日夕方まではグランドで野球、夜は家でギター。その繰り返しだったですね。当時は今みたいに教材がないから、歌本や音楽雑誌とか、そういうのを買ってきて。この曲はこうやるんだなって、一曲一曲覚えていきました。

最初はアコースティックギターですか。

●ずっとアコースティックでした。ソロもアコギでちょこちょこやっていたんですが、当時伊勢正三さんがやっていた「風」っていうバンドの「海風」っていう曲があって、そのソロにハイフレットのチョーキングがあって。ああ、これはもうエレキじゃないとダメだ！って思ってエレキを買いに走りました。

本格的にバンドをはじめたのは？

●大学に入って、サークルで。その後、サークルの先輩だったドラムの川西さんに誘われて、学外のバンドに入りました。今でいうインディーズですね。東京、名古屋、京都、大阪など全国の有名なライブハウスをツアーするバンドでした。ほどなくバンドは解散するんですが、その頃にプロになる決意をして、いろんなタイプのバンドをやってました。一時期は5バンドくらい掛け持ちしたりして。その後、もう一度川西さんとバンドをやるんですが、それがユニコーン。87年の10月にデビューして、そこからは突っ走る日々になるわけです。

いつか、もう一度やる、そんな気がしていました。

ユニコーンの再始動は、どんな経緯だったのですか。

●16年たって大人になって、またバンドと集まってみました、という感じです。今となっては誰が言い出したとか、たいして問題じゃないですね。それに僕にはなんとなく「いつかはもう一度集まるだろう」っていう予感があったんです。ま、各人がそれぞれ活動していて、それぞれサイクルがあるわけですよ。その5人のサイクルが揃ったのが、たまたま16年後だったということなんです。ある意味、とても自然な流れでした。たまたまアルバムを作って、たまたま大きな会場でツアーする機会が与えられたのでやってますけど、バンド内では「普通にいこうよ」という感じ。僕ら、気持ちとしてはライブハウスでこじんまりとやったって全然良かったんですよ。

メンバーが久々にそろって演奏してみて、変化した点はありますか。

●前は「オレが、オレが」だったのに、今は「キミが、キミが」（笑）。お互いを尊重するんですよ。大人になりましたからね。それぞれ出るべきところがわかったんです。メリハリがついて、音もキャラクターもうまくブレンドできるようになったと思います。

この5人だから出せる音。それがあるから演っている。

一方で変わらない点は？

●やっぱり人の良さですね。みんな、ある意味スタイリッシュで、ある意味田舎者なので、妙に素朴なところと、妙に洗練されたところがあるんですが、そこは変わらないです。しかもそんなお互いを尊敬できて、それをカッコいいと思えるところも変わらないですね。ユニコーンってちょっと特殊なんです。5人とも、音楽的にも、遊び人としてもレベルが凄く高い。5人揃うのが奇跡的だし、それがこのバンドならではで。そこもやっぱり変わらないです。

このメンバーでないと出ないサウンドがあるのですか？

●もちろんです。それがあるから演ってるんですよ。メンバーがいっしょに音を出すと「やっぱこれなんだよね」って思います。あのね、上手な人を集めればいいバンドができるわけじゃないんです。ビートルズはテクニック的に飛び抜けているわけじゃないけど、あんなノリのバンドはできないわけですよ。それと同じ。ユニコーンはこの5人でないと出ないサウンドです。

ユニコーンでライブすることは楽しいですか？

●奥田民生が言うんだけど、ソロでライブをやると、2時間歌ってると。たとえばカラオケでさ、2時間マイクを独占して歌ったらどう思うだろうって。ヤツはそういう感覚も持っているんです。ユニコーンは僕ら歌っているわけですよ。ベースやキーボードだって、ドラムだって歌う。そういうパラエティー番組的なところがあって、こんなことをやったら楽しいだろうなっていうのが、ユニコーンです。

僕のPacifica USA2は理想のギターにかなり近い

ギターはヤマハのPacificaがメインですね。

●Pacifica USA2をずっと使っています。最初はPacifica Customを使っていたんです。ロックっぽくて良かったんだけど、だんだん音のバリエーションが欲しくなってUSA2にしました。アームやピックアップを僕の好みに変えてもらったんですが、これがもう、素晴らしいギター。ライブでもスタジオでもずっとこれを使ってます。

Pacifica USA2どのくらい使っていますか。

●1998年に作ったからもう11年。これが僕のナンバー1です。同じスペックでも3本作って、ツアーでは2本のPacifica USA2を交互に弾いています。最初に作った方がナチュラルで、新しい方が青。弾いてみると意外と性格がちがって、青のほうがロック向きですね。ギターって、手にしてから完成まで時間がかかるんですよ。新しい青い方はピックアップを変えてみたり、ネックにも少しずつ手を入れています。速弾きのためにはネックは薄い方がいいし、芯のある音、という意味ではネックは太い方がいい。僕は両方あるギターが欲しいので、そのバランスを探ってます。

ライブではアコースティックのCPXも弾いていますね。

●ロックサウンド中でアコギらしい音が欲しいので、ツアーではサウンドホールを塞いで使ってます。ジャキジャキ感を出すためにいろいろ試したんですよ、弾き方を。ピックも固いものから柔らかいものまで試してみて。意外にも柔らかいピックで軽く速く弾くのが、いちばんいい音が出せました。

手島さんにとっての「理想のギター」とは？

●24フレットあって、ネックは薄めで、アームがダブルロックで、太いハンバッカーの音とシャープなシングルコイルの音が出るギター。わりとハッキリしてるんです。メインで弾いているナチュラルのPacifica USA2は、かなりそれに近い。歪ませると途中からフィードバックが出るぐらいのいいパワー感で、クリーンはとことん綺麗なハーフトーンが出せる。セブンスコードが美しく鳴ってくれて、サスティンもほどほどある。だからPacifica USA2は正直言って今回のユニコーンでも、駆使してますよ。

ツアーのための特製ピック（非売品）

好奇心と忍耐力があればバンドはずっと続けられる

ユニコーンの再結成で、バンドを続ける勇気をもらった人も多いと思います。アドバイスをいただけますか。

●僕らみたいに40歳を越えてからコンサートツアーをするのはレアなケースだけど、確かにバンドを続けることは大変なことです。でもやっぱり言えるのは、バンドは「続けること」が楽しいんです。先日故郷の広島に帰って同窓会に出たんですよ。みんな僕がバンドやってることを喜んでくれるけど、僕と彼らの違いは「オレは続けた。彼らは辞めた。」ってことなんですよね。バンドが好きなら歯を食いしばってでも頑張るとか、ユルいながらもバンドを続けるとか。どんな方法でもいいんです。ギター弾くのは普通に仕事をしていても続けられることだからね。プロでもアマチュアでも「バンドって40歳になってもできるのかな、いつまでもバンドをやってていいのかな」って迷うことがあると思うんです。そんな人たちに、今のユニコーンを見てもらって、勇気を持ってもらえればいい。そんな活動なんですよ、僕らの活動は。好奇心と忍耐力。それがあればバンドはいつまでだって続けられます。◆

はじめてドラムを叩いたのは野球の応援と定期演奏会

ドラムをはじめたきっかけを教えてください。

●中学、高校と吹奏楽部だったんです。最初はクラリネットをやっていたんですが、肺炎でドクタートップがかかってしまって、高校1年の夏にバーカッションに転向してマリンバやシンバル、ティンパニーとかをやってました。ドラムは高校3年になってから。野球の応援や定期演奏会の時にはじめて叩きました。

ドラムを叩いてみてどうでしたか。

●はじめは難しくて、みんなはいきなり8ビートが叩けたのに、私だけ叩けなかったんです。悔しくて、凄く練習したんですよ。そしたら、そのうちに好きになって。ロックが好きだったこともあって、大学では軽音楽部に入りました。

軽音のサークルでドラムにのめり込んだのですか。

●先輩とバンドを組んで、ボンジョビとかのアメリカンロックをやってました。吹奏楽出身だから、いつも楽譜を見ながら完コピで演奏してたんですけど、ある日先輩に「お前、それはダサいぞ」って言われて。それで、ああ、楽譜通りの演奏より、グルーヴとか、音の出し方、チューニングとかの方が大事なんだって気づいて。そこから変わりましたね。その後コピーよりオリジナルが面白いと思い始めて、オリジナル中心のバンドを組んだりしました。

チャットモンチーは最初からプロ志向だった

チャットモンチーにはどういう経緯で参加したのですか。

●ベースのアッコちゃんが後輩で、何度か誘われて。当時からこの人たちは「プロでやる」って知っていたから、それなりの決意をしてから加入しました。

チャットモンチーに入って、どうでしたか。

●緊張感がありましたね。姿勢が全然違うなって思った。遅刻とかってそれまでは平気だったけど、そういうのも無くなって。2人が真剣だから、自分も真剣にやってなきゃアカンやろって思ったんです。当時一回の練習が普通に8時間ぐらい。軽音のスタジオが一日中使えるから、日曜日とかは朝から晩まで。それだけやってると上手くなるし、上手くなるとまた楽しいっていう好循環。練習だけじゃなくて、曲づくりにも長い時間をかけていました。

デビューのきっかけは？

●あるコンテストでグランプリを獲ったんですけど、そこでデビューの話とかはなく、逆に「君らみたいなバンドは全国にゴマンといるから」って言われて。それでもめげずにデモCDを送りまくって、結局それがきっかけになりました。デモCDを送る封筒をめっちゃカラフルにして送ってたら、郵便局の人に「こういうの次からやめてくれます」って言われたこともあります。でもそういう努力も大事！普通に送ったら絶対聴いてもらえんって思っていて、必死でしたから。

メインのセットはバーチカスタムアブソルート

ヤマハのドラムはいつから使ってますか。

●2年くらい前から。バーチカスタムアブソルートを使ってます。最初はパワフルなサウンドのオークにしようと思ったんですけど、バーチを試奏したら音に深みがあって気に入りました。でもパスドラムだけはパワーが出せるオークにしています。

スネアは何を使っていますか。

●曲によって音色で変えてます。アルバム『告白』の「あいまいな感情」という曲ではヤマハのVSD1460を使いました。音に暖かみがあるなって思って。凄くマッチしましたね。「海から出た魚」という曲ではハイピッチにしてもローが出るNSD1470を使ってます。

タムを12"+13"から10"+12"に変えたそうですね。

●私、タムが凄く好きで、タムが和音になるようにチューニングしたいんです。でもチューニングでいつも苦労していて。12、13だと口径が近かったんだと思います。それで10" のタムにして口径を小さくしてみたら、すごくチューニングしやすくなりました。レコーディングでもよく使ってます。

ハードウェア類はどうですか。

●すごく使いやすいです。タムのマウントがグルグルって回せるところが好きです。ヤマハのドラムを選んだ理由の一つに、ハードウェアもあったりするんですよね。

ヤマハドラムの音の印象はいかがですか。

●ヤマハのドラムはジャズから始まってるから「高音が得意」っていう印象があったんですけど、実際に叩いたらちゃんと低音もあって。低音も高音もしっかり出るから、レコーディングの時にチューニングでいろいろ対応できると思います。

ツアーでは「クラブジョーダン カクテルドラム」も使っていますね。

●あれ、いいです。めちゃ楽しいです。堅苦しい感じがないから、ドラムをやったことがない人でも絶対楽しいと思います。スタジオに置いておくと、アッコちゃんとエッちゃんが、ずっと叩きまくっています（笑）。

必要最小限のドラムでいかに曲をカッコよくするか

高橋さんが目指すドラムとは？

●私はバンドのドラマーで、バンドってひとつのカタマリだと思うんです。そこでのメインは何かというと、曲をよりよく、よりカッコよく伝えること。だから歌詞もよく理解して、どうやったら音楽として面白いことが提案できるかってことを考えています。私が目指してるのは「ドラムをどう叩くか」より「バンドをどう見せるか」ってこと。そこにメインをおいています。

ドラムより音楽そのものを大切にするということですか。

●そうですね。まず曲ありき。その曲に必要だから叩くという姿勢です。この曲にはキックしか必要ないって思ったらそうするし。必要最小限でいかに曲やバンドをカッコよくするかっていうことを、これからも目指したいですね。

楽器屋さんと仲良しになることをお薦めします！

チャットモンチーの影響で「女の子バンド」をやりたい子が増えてると思います。彼女たちに一言お願いします。

●女の子バンドは楽しいですよ。普通にみんなでケーキ食べに行ったりできるし。「早めに集合してランチしていこう！」とか。バンドを離れたら友だちに戻れるし、バンドメンバーとして、同志として戦っていける感覚もあります。もちろんスタジオに入ればミュージシャン同士だからお互いに厳しいですよ。でも終わったら、その日あったことを全部忘れて、いっしょに帰るんです。そこのメリハリがいいなって思ってます。

最後に読者にアドバイスをいただけますか。

●私、ラッキーだったなと思うのは、楽器屋の店員さんと仲良くなれたこと。いろんなアドバイスがもらえたし、ミュージシャン友だちを作る場にもなったし。そこでドラマーさんと友だちになって、いろんな機材を教えてもらったり、ライブに誘ってもらったり、次に会う時までにもうちょっと上手くなっておこうとか。だからみなさんも、ぜひ楽器屋さんと仲良くなることをお薦めします。最初は、気後れするかもしれないけど、一年も通っていれば常連って感じになります。いいですよ、楽器屋さんは。◆

今年3月にリリースされた3rdアルバム「告白」が好評を博している3ピースロックバンド、チャットモンチー。そのパワフルで歌心溢れるビートを響かせているドラマーの高橋久美子に、バンドのこと、ドラムのこと、愛用のヤマハドラムについてインタビューした。

Kumiko Takahashi [chatmonchy] Plays Yamaha Drums

Drum Set Up

1:	NBD822UA	22" x 17"	SLS
2:	BTT1110U	10" x 8"	SLS
3:	BTT1112U	12" x 9"	SLS
4:	BTT1116	16" x 16"	SLS
5:	NSD1470	14" x 7"	HSS

Instruments

カクテルドラムシステム
Club Jordan
メーカー希望小売価格
119,700円（税込）
※価格にシンバルはふくまれておりません。
スタンディングでの演奏を
フィーチャーしたスティーブ・
ジョーダンのシグネチャーモデル。

スネアドラム（ヴィンテージ コンセプト）
VSD1460
メーカー希望小売価格
47,250円（税込）
メイプル4プライの薄胴に6プライ
レインフォースメントを装着。サスティンの短い、
あたたかみのあるオープンなサウンドが魅力。深さは6インチ。

スネアドラム（ラウド コンセプト）
NSD1470
メーカー希望小売価格
61,950円（税込）
硬質なオークシェル8プライ
という非常に厚い胴構成。
大音量と低音の効いたパワフルなサウンド。深さは7インチ。

Information

先売切！

傑作3rd Album『告白』
¥3,059（TAX IN）KSCL-1303

大好評Live DVDが、待望のBlue-ray Discで登場!!
チャットモンチー レストラン メインディッシュ
¥6,090（TAX IN） KSXL-2/BD

先売切！